

形態実習Ⅱ（脳）

Practice of Human Morphology II: Neuroanatomy

実習責任者：解剖学 特任教授 平田和明

1. 実習概要・学習内容

人体の正常構造の習得を目指す一環として、「神経のしくみ」ユニットでの講義内容を脳実習において実際に脳標本を観察し学習の理解を深め、向後の基礎医学・臨床医学学習の基盤となる学力を身につける。

2. 到達目標

- 1) 脳の構成を理解し、説明できる。
- 2) 大脳と小脳の構造を理解し、その機能を説明できる。
- 3) 脳幹の構造を理解し、その機能を説明できる。
- 4) 脳神経を同定し、その機能を説明できる。
- 5) 伝導路を理解し、説明できる。

3. 学習上の注意点

「神経のしくみ」ユニットの講義で配布されるプリントと教科書・参考書で、事前学習を十分行い、脳実習に臨むこと。2回の実習を行い、3回目は実習室において実習グループごとに口頭試問を行う。脳実習の学習内容は複雑で多くの項目を含んでいるが、実習回数は3回であり十分とはいえないことから、しっかり予習と復習を行い学習を進めることが重要である。

4. 教科書・参考書

教科書：『解剖学実習の手引き』（南山堂）

参考書：

- (1) 『岡嶋解剖学』（杏林書院）

（書評）伝統的な詳しく記述された系統解剖学書であり、人体解剖学を学ぼううえで必須の書籍である。索引が充実しており調べものにも向く。

- (2) 『グレイ解剖学』（エルゼビア・ジャパン）

（書評）詳しく優れた局所解剖学書（胸部、腹部などの部位ごとの記述）である。第2学年の解剖学実習、高学年の臨床解剖学等の学習にも適している。図が美しく、長く使える良書である。

(3) 『ネッター解剖学図譜』 (丸善)

(書評) 図譜集としては定番である。解説はないので、これだけでは勉強できない。

(4) 『解剖学講義』 (南山堂)

(書評) バランスの良い良書である。図が適度にあり、説明文の量も適当である。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	70 (%)	前期試験期間中に神経ユニットで実施する。
口頭試問	1	10 (%)	実習期間中に実施する
レポート	1	5 (%)	口頭試問後に提出する。
ポートフォリオ	1	5 (%)	実習期間中に提出する。
授業態度	—	10 (%)	

※当実習では学年末再試験を行わない。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
解剖学 (人体構造)	特任教授	平田 和明	平日 12:30~13:30	医学部 5階 解剖学講座	3517 (内) 講座秘書
同上	准教授	長岡 朋人	同上	同上	nagaoka
同上	講師	星野 敬吾	同上	同上	hoshino
同上	講師	水嶋 崇一郎	同上	同上	s_mizu
同上	助教	清家 大樹	同上	同上	hseike

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略